

社会技術研究開発事業
令和4年度研究開発実施報告書

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

ソリューション創出フェーズ

「性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、
早期介入とPTSDケア迅速化の人材育成および
全国展開に向けた体制づくり」

研究代表者 長江 美代子
(日本福祉大学 福祉社会開発研究所
研究フェロー)

協働実施者 片岡 笑美子
(一般社団法人 日本フォレンジック
ヒューマンケアセンター、会長)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 目標	2
2 - 2. 実施内容・結果	4
2 - 3. 会議等の活動	16
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	17
4. 研究開発実施体制	17
5. 研究開発実施者	19
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	21
6 - 1. シンポジウム等	21
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	21
6 - 3. 論文発表	24
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	24
6 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等	25
6 - 6. 知財出願	25

1. 研究開発プロジェクト名

性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、早期介入とPTSDケア迅速化の人材育成
および全国展開に向けた体制づくり

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. 目標

(1) 目指すべき姿

① 地域における社会課題

性暴力被害は心的外傷後ストレス障害（以下PTSD）発症→生活困難→社会不適応→再被害、の悪循環が存在する。性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」（以下「なごみ」）での対応件数は2016年開設以後の約6年間で、電話延べ8687件、来所延べ2563件、診察延べ802件、うち新規受付1774件であり、その2/3は愛知県および名古屋市の住民である。子どもの被害、特に思春期の被害は深刻で、利用者の約3割は18歳以下である。成人でも、被害後1年以上経過してからの来所者の70%は18歳未満で被害に遭い、数年から数十年、PTSD症状を抱え苦しんでいた。親族（実父、養父、兄弟など）からの被害は全体の25%に及ぶ。SNSによる被害も増加傾向である。18歳未満では、自分で「なごみ」に連絡してくることは少なく、被害の発覚までに時間がかかっている。特にコロナ禍でDV・虐待・自殺は増加、児童・生徒・大学生の性暴力被害は前年度より17%（26.3→43.2%）増加し、SNSや親族からの被害が目立っている。

性暴力被害者のほとんどが被害直後から急性ストレス症状に悩まされ、その後は半数以上がPTSDを発症する現状に対し、日本のほとんどの性暴力被害者ワンストップ支援センター（以下OSC）が、PTSDに対応している精神科を探すのに苦慮している現状がある。本プロジェクトの調査では、愛知県内109件の精神科診療施設（個人を含む）のうち、27件がPTSD治療は行っておらず、ランダム比較試験でエビデンスが確立された治療法である、トラウマに焦点を当てた認知行動療法（TF-CBT）を基盤としたPTSD専門療法（For et al., 2013）について実施しているのは7件だった。PTSD治療を行っていない理由の半数以上は、診療時間に余裕がなくコメディカルスタッフが不十分という内容だった。地域のOSCに対して、半数は協力できないと回答した。協力できない理由は、①現状の精神科診療体制において、性暴力被害者が示す病理、たとえば解離に関するもの、複雑性PTSDおよび慢性化する経過でおこってきた依存などの合併症に対応する余地が、時間的にも人間的にも見いだせない、②トラウマをかかえた性暴力被害に対応する経験やトレーニングを受ける機会がないため対応できない、③OSCが認知されていない、であり、課題をあらためて認識した。個人のが及ばない内容であり、時間をかけて国の施策に反映できる取り組みを続けていく必要があると考える。

シナリオ創出フェーズでは、病院拠点型ワンストップ支援センター（以下OSC）を拠点に、被害直後から中長期の性暴力被害者救援システム「NGM4S（NAGOMI for Survivors）救援システム」を構築した。このシステムを基盤に、まず県内の救命救急センターへのOSC拡充に向けた事業展開を図り、多機関多職種連携のための情報共有、データ構築を図っている。一刻も早くNGM4S救援システムを全国的に展開し、被害者のPTSD予防・治療・回復を確実にする仕組みの確立が課題である

② 目指すべき姿（ビジョン）

すべての性暴力被害者は救援され、予想されるPTSD発症に対して予防・治療・回復に沿った適正な医療が提供され、健康で社会生活が継続できる。OSCが、国連の推奨に基づき女性（人口）20万人に一箇所設置され、研修を受けたスタッフが配置されている。社会には性暴力は犯罪であるという認識が浸透しており、すべての性暴力被害者はためらうことなく助けを求め、二次被害を受けることなく、トラウマ治療を含め包括的な支援を一箇所で受けることができる。性暴力を許さない社会システムにより、将来的には性暴力は撲滅する。

（2）研究開発プロジェクト全体の目標

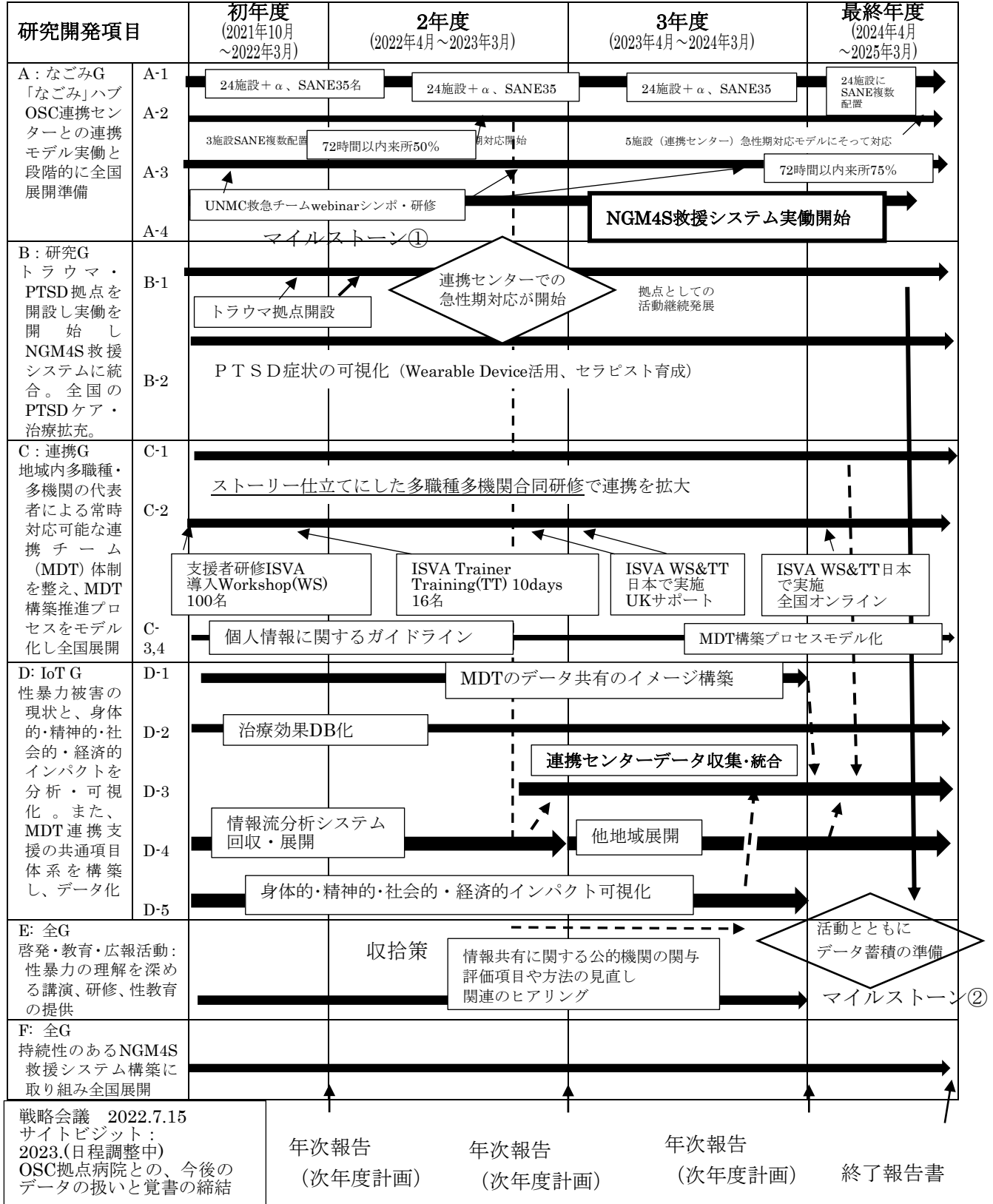
シナリオ創出フェーズでは、OSCを拠点に、性暴力被害直後から中長期の対応としてNGM4S救援システムを構築した。このシステムを基盤に、愛知県との協働で救命救急センターへのOSC拡充に向けた事業展開を図り、人材育成と関係機関の連携を促進する体制を構築し、実証試験を行う。関係者の連携体制の足がかりとなる自治体主導の連携協議会を開始し、多機関多職種連携のための適切な情報の流れの明確化と情報共有を進める。これらの事業展開・人材育成・連携構築・情報共有の方法を、他地域での展開を可能にするNGM4Sパッケージとして一般化し、全国展開を可能にする。

他地域への展開としてはNGM4Sパッケージの救援システムを構成する①急性期対応モデル、②多機関・多職種連携チーム（MDT）体制モデル、③PTSD治療技術、を地域毎にカスタマイズすることで他地域への導入を段階的に進める。情報共有システムとしては、整理された必要な情報の流れを元に簡素な共通コアシステムを構築し、他地域での展開を可能にするNGM4Sパッケージとして一般化する。

2-2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

研究開発期間中(42ヶ月)のスケジュール



(2) 各実施内容および(3) 成果

今年度の到達点①：なごみをハブとした愛知県内OSC連携センターモデルの初動を、小規模で開始できる。

実施項目①-1：OSC連携センター候補病院2カ所に急性期対応ができる体制を整備する。

実施内容：

- ・ 愛知県性暴力・性犯罪被害者支援事業との協働により第9回目 SANE 養成研修を令和4年10月～令和5年1月（全8日間、65時間）実施定員60名とし、46名が受講した。愛知県事業対象者21名、一般25名
- ・ OSC 連携センター候補病院から複数の看護師の SANE プログラム受講を促進し、立案した急性期 OSC 導入へのアクションプランの実施を支援
- ・ 愛知県内で定期的に複数看護師が SANE 受講している4連携病院にアプローチした（タイムリーな相談やなごみ見学など）
 - ・ 他県から定期的に複数看護師が SANE 受講している病院にも積極的に関与した。
 - ・ 連携センター候補病院の SANE のなごみ事例検討会参加を促進
 - ・ オンライン参加可能のため、定期的に参加できるようになった。
 - ・ OSC を支える支援員 ISVA の養成を性暴力・性犯罪被害者支援事業に組み込む
 - ・ ISVA 研修講師来日：

Alison Eaton 氏、Ceri Fowler 氏

【日時】 2022年11月7日(月)～11月18日(金)

【訪問目的】

- ①組織の機能と、性暴力対応に関するシステムを知る
- ②性暴力被害者支援センターとの連携に期待する内容と現状を共有する。
- ③英国より来日しているISVA研修講師との交流により、ISVAの役割と関連機関との協働について理解を深めた。

【訪問先】

名古屋、福岡、東京の性犯罪・性暴力OSC、児童相談所、警察、検察、行政窓口など

ISVA講師来日と施設訪問、2022.11.7～11.18 名古屋・東京・福岡

	午前 訪問施設 誰と会うか？	午後① 訪問施設 誰と会うか？	午後② 訪問施設 誰と会うか？
11/7 東京着—名古屋行き			
11/8 名古屋	なごみ見学	Interview	Interview
11/9 名古屋	名古屋児相	名古屋警察	名古屋検察
11/10 名古屋—東京 午前	移動	移動	VSCT
11/11 東京	在日英国大使館	移動	内閣府
11/12 東京	Interview	Interview	
11/13 東京			
11/14 東京	SARC	移動	検察庁
11/15 東京—福岡 午後移動		移動	
11/16 福岡	福岡児相	Interview	Interview
11/17 福岡	福岡センター		
11/18 帰国			

実施項目①-2：愛知県性暴力・性犯罪被害者支援事業との協働によりOSC連携センターに急性期対応モデルを導入し活動開始する。

実施内容：

- ・ 3名以上のSANEが配置されたOSC連携センター（5カ所）となごみが連携して急性期対応を開始した。なごみ以外の7施設で性暴力73件対応している。
- ・ なごみハブモデルにおけるSANE配置の精神科OSC連携センターの役割の明確化。

新たな精神科病院からのなごみ見学があった。

- ・ 性暴力被害後72時間以内に支援につながる利用者の割合について、関連項目とともにモニターした。約半数で、大きな変化はない。

実施項目①-3：日本救急医学会、日赤愛知災害管理センターとの協働により、救急や災害の現場にける性暴力被害対応の体制を導入する。

実施内容：

- ・ 救命救急センター外来での性暴力被害初期対応の具体化
なごみの急性期対応マニュアルを改訂して連携センターと共有（配布）した。
- ・ 日赤愛知災害管理センターとの協働により災害時の性暴力被害初期対応を具体化
災害時の性暴力について、本社 事業局 救護・福祉部 救護課係長に説明する機会を持った（2023年2月10日）

成果：

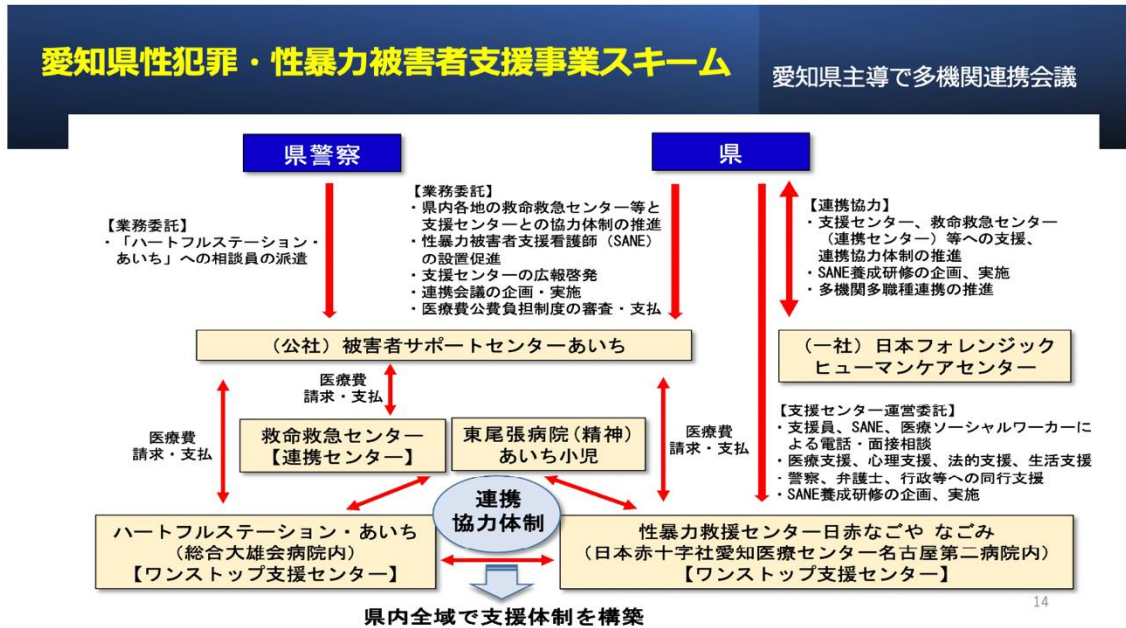
- ・ 性犯罪・性暴力被害者支援連絡会議事業4年目で、県内連携センターのうち2年連続参加5施設、3年連続参加6施設 2022年までで愛知県内26施設117名がSANEを修了した。

A 愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業5カ年計画(2019年度～2023年度)
 ・愛知県救命救急センターの看護師を、性暴力被害者支援看護職(SANE)として育成し、地域で急性期対応ができる体制を整備する。
 ・なごみをハブとした地域連携ネットワークを構築する。連携センターとして活動する。
 ・病院拠点型ワンストップ支援センターを増設する

年度	愛知県救命救急センター精神科・小児科受診対象病院数	SANE養成プログラム受講病院数及び看護師数	対象病院外受講者数	SANE配置数	性暴力被害者件数	SANE対応件数	なごみとの連携体制整備
2019年度(対面)	23病院	18病院26名	6名				
2020年(オンライン・一部対面)	24病院 精神科医療機関1	11病院18名 精神科医療施設3名	10名				
2021年度(オンライン・一部対面)	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	11病院20名 精神科医療機関1名 小児科医療機関3名	10名	17施設82名 (なごみ以外22名)	8施設585件 (なごみ以外36件)	4施設477件 (なごみ以外19件)	5施設
2022年度(オンライン・一部対面)	24病院 精神科医療機関1 小児科医療機関1	12病院18名 精神科医療機関3名 小児科医療機関2名	23名	17施設100名 (なごみ以外40名)	8施設654件 (なごみ以外73件)	4施設475件 (なごみ以外43件)	5施設

- 2022年6月7日第1回愛知県性犯罪・性暴力被害者支援連絡会議では、多機関多職種でつなぐ性暴力被害者支援体制や、人材育成と性暴力被害者支援看護職(SANE)養成プログラムに加えて、支援員養成についてについて意見交換できた。体制については、愛知県事業スキームが示され、関連機関の位置付けが明確になった。





- 2022年12月7日第2回愛知県性犯罪・性暴力被害者支援連絡会議には、愛知県15施設連携センター、あいち小児保健医療総合センター、サポートセンターあいちなどが新たに参加し、支援金についての連絡、SANEの活動報告を共有できた。まだ少ないが各病院で取り組みがなされている。急性期対応はされ始めているが、心理支援や弁護士などとの連携はまだ少なかった。多機関連携にSANEのような実務者が参加できるとよい。

今年度の到達点②：トラウマ・PTSD拠点を開設し実働を開始する。

実施項目②-1：トラウマ拠点を開設し、連携センターで受け入れた被害者のトラウマ・PTSDの予防・治療・回復への介入および相談窓口とするとともに、治療ケアに従事するスタッフの育成を行う。

実施内容：

- 所属大学名古屋キャンパスに近い場所で賃貸のトラウマ拠点を確保し、OSC及び連携センターで受け入れた被害者のトラウマ・PTSDケアを開始した。トラウマケアセンターの参考として兵庫県こころケアセンター（2022年10月11日）、セラピールームの参考として明治大学子どもクリニックを見学した（2022年9月12日）
- PTSDの予防・治療・回復への介入、相談、治療ケアに従事するスタッフの育成につ2名がPEトレーニングを受講し、2名がPCITセラピストとして加わった。

実践：PE 2名、PCIT 6 親子、心理カウンセリング 3名

トラウマインフォームドケアとして CARE 3回（8月オンライン、1月大学、3月三重県）

実施項目②-2：性暴力被害の影響およびPTSD症状の可視化

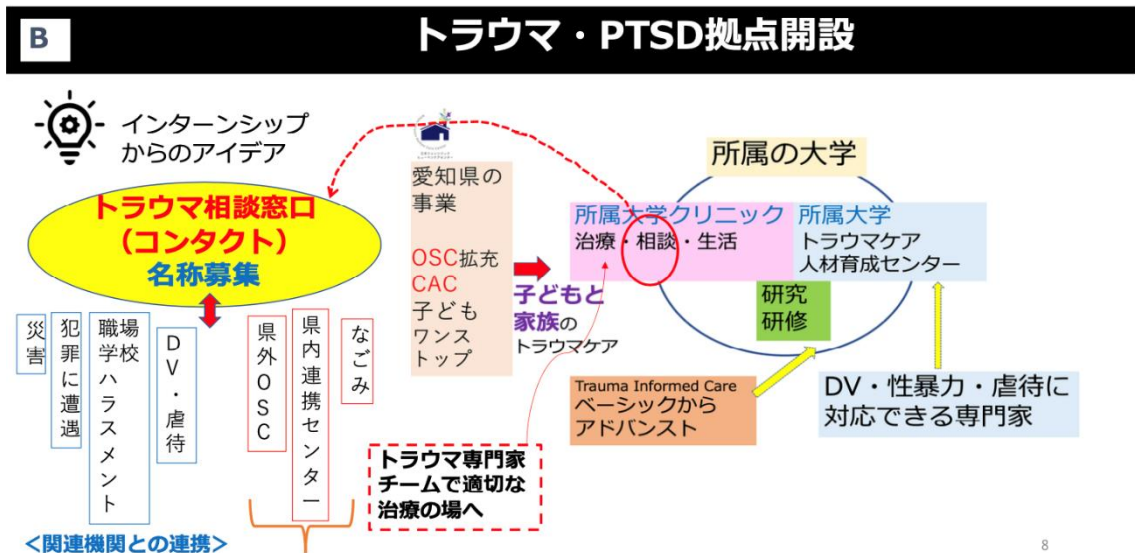
実施内容：

- ウェアラブルデバイス（Apple watch、Coresence、My Beat）による PTSD 症状と治療効果の可視化の試行 PEI 名

成果：

- NFHCCオフィス&セラピールーム（3LDK賃貸）の準備ができ、トラウマ拠点の役割などを明確にできた。
- インターンシップ活動からのフィードバックにより、今後の方向性を再検討できた。また、中高生にアプローチしている団体との繋がりを持つことができた。

<トラウマ拠点活動内容案>



今年度の到達点③：被害者を適正な支援・治療につなぐ、地域内多機関・多職種の代表者による常時対応可能な連携チーム（MDT）体制を整える。

実施項目③-1：常時対応可能なMDTを目指し、現場との合意形成のプロセスを具体的にすすめる。

実施内容：

- MDT ワーキングに愛知県警、名古屋市の3児童相談所→愛知県児童相談所と
いうように参加メンバーを募っていくというプロセスの促進
ISVA導入のために講師来日時、MASH (Multi Agency Safeguarding Hub)と
いう児童保護と多機関間セーフガードハブとしての多職種連携システムがある
ことを知り情報収集を始めた。
- 司法面接実施に関連し、系統的全身診察ができる医師を育成する。
2022.5.14（土）認定特定非営利活動法人チャイルドファーストジャパン

(CFJ)による「出前型 被虐待児診察技術研修」

小児科、産婦人科、救命救急センター、精神科など、被虐待児の診察をする可能性がある医療機関で診療されている医師を対象とした。県内30名の医師が参加した。

- 個別のケースについて取り組む機会として、支援のプロセスを機関多職種合同研修で連携を拡大
- 18歳を超えた性的虐待ケースについてオンラインセミナー開催
2022年5月31日 講師：飛田桂弁護士 参加者：57名+スタッフ3名
親からの性虐待の場合、加害親との同居が続く限り被害は継続し、見逃され支援につながらず、18歳を超えると、たとえ発覚しても、現体制では児童相談所が主体的に支援するのは困難な状況となる。この課題への取り組み支援の糸口をつかむため、なごみのスタッフ、弁護士、児童相談所その他支援関係者みんなで学ぶ機会として、オンラインレクチャーを企画した

実施項目③-2：UKで開発された支援者研修ISVA (Independent Sexual Violence Adviser) オンライン研修を活用し全国展開の土台を築く

実施内容：

- 全国組織で構成した ISVA—Japan により、全国展開を前提に OSC 支援者研修として導入し、MDT を推進（当事者団体、犯罪支援サポートセンター、病院拠点型 OSC、内閣府ワンストップ検討委員、英国大使館など）
2022年11月のISVA講師来日時に、10日間研修の最終インタビューが実施され、15名がISVAの認定を受けた。その後のミーティングで、日本用SARCベースラインアセスメントが届き、全国のOSCでの実施を検討している。

成果：

- 15名がISVAを修了し、今後の活動について具体的になった。
- 合意形成に困難はあるが、MASHを含めて、多職種多機関連携のありようについて再検討し、時間をかけて進める。

今年度の到達点④：性暴力被害の現状と、身体的・精神的・社会的・経済的インパクトを、中長期的に分析・可視化するためのデータ収集・分析環境を、拠点内に構築する。また、拠点間、多機関・多職種間の連携を支援するための共通項目体系を構築し、データ化を進める。

実施項目④-1：MDTが迅速なアセスメントと決断により適正に対応するために組織間での性暴力・虐待に関する情報連携に必要な項目を明確にする

実施内容：

- 全国レベルでのデータ集積につながるシステム構築を目指したが、情報共有の合意形成に時間がかかり、着手がかなり遅れている。
- 拠点病院とのOSC対応データに関する情報管理の契約が締結できていなかったことから、プロジェクト期間内でのシステム構築について、現実的なシステ

ムとゴール設定を再検討した。

- JSTの協力を得て、データの管理に関して専門家の助言をえた
- 拠点病院は、なごみは継続するが、データについては病院が全て責任を持って管理していく。システムも作る。NFHCCは6月末までに、現オフィスを退去
実施項目④-2：トラウマケアおよびPTSD治療効果を集積して可視化・応用する。

実施内容：

- 効果測定尺度入力システムの試行を開始した
- 電話対応（アドボケーターおよびSANE）について開発した来所者満足度調査については、体制の変更に伴って、トラウマ拠点での生活支援を含む心理社会支援システムで、支援の質について問う調査に応用する予定である。

実施項目④-3：急性期3ヶ月の対応とPTSD発症について分析（大項目①とあわせて）

実施項目④-4：性暴力被害の現状および被害が与える身体的・精神的・社会的・経済的インパクトを可視化する

- シナリオフェーズで検討した項目と入力フォームについて、知財としての活用を含めて拠点病院との話し合いと覚書の締結を準備することとなった
「性暴力被害者ワンストップ支援センターのための継続的・統合的データ管理システム」として全国展開への活用を目指す。

実施項目④-5：性暴力被害の現状および被害が与える身体的・精神的・社会的・経済的インパクトを可視化する。

実施内容：

- なごみのデータを分析し、被害者の収集データ項目を決定
- 内閣府の働きかけによる勉強会 2回実施
- 性暴力による社会的・経済的損失を具体的に示すことで、社会の理解を促進
実際の被害者にアンケート調査を行うことで、それぞれの被害者がどのような経済的・社会的損失を被ったのかについて推計することで、性暴力がもたらす個人及び社会に及ぼす影響を可視化した。
 - NHKとの協同による支援窓口につながない被害者対象のアンケート調査を、項目を共同で検討し実施した。
 - 毎月のSE（社会経済的インパクト）ワーキングで、NHK「性暴力を考える」チームと協働している。
 - 今回のNHKアンケート質問紙の作成と結果分析に関わる。データの共有と活用とについては「覚え書き」の文書を交換している。
 - 35問と自由記述で構成した。 **38,383件の回答が寄せられた。**

*NHK“性暴力”実態調査アンケート 分析会議

2022年5月15日 東京都港区赤坂3-8-8 赤坂フローラルプラザビル 3階

◆出席（五十音順 敬称略）

大沢 真知子（日本女子大学名誉教授・労働経済学が専門）

小笠原 和美（慶應義塾大学教授・警察官僚）

片岡 笑美子（一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター長・性暴力対応看護師 SANE-J）

齋藤 梓さん（目白大学准教授・臨床心理士・公認心理師）

長江 美代子（日本福祉大学教授・公認心理師・トラウマ専門治療・SANE-J）

花丘 ちぐさ（公認心理師・ポリヴェーガル理論の視点から）

宮崎 浩一（立命館大学 大学院博士課程・男性の性被害を研究）

・社会経済的インパクトざっくりと示して、段階的に深めた



成果：

NHKアンケートにより、日本の被害者のデータとしてPTSDを含めて、性暴力被害の影響が具体的に示すことができた。

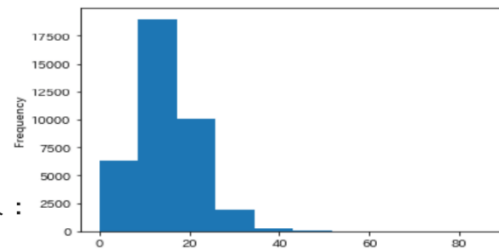
また、低年齢層の被害が多いことも可視化された。

38,383件 NHK
 性暴力を考える 大規模アンケート データ資料

Q4・女性 **35,077件** 男性 **438件** Xジェンダー **2,086件**
 (91.3%)

Q7 **被害年齢**
0～86歳
平均15.1歳

Q10
 18歳以下×加害者が親族・親の恋人：
4,751件
 「美父、継父、美母、継母、親の恋人、兄、姉、妹、祖父、おじ、おば、いとこ、その他親族」のいずれか



- 全体の54.1%にあたる1万9,090件が“PTSDの診断がつくほどの状態である可能性がある”とされた。
- 「PTSDと診断された」と答えた人は被害に遭ったという本人のうち3.1%
- 性暴力の被害に遭った人は、“その後”も長きにわたって心身の不調にさいなまれ、26%が「死にたい」と感じ、36.7%が「自分を責めている」
- 気持ちや思考への影響を尋ねると、「気持ちが落ち込む」61.1%、「自分を責める」36.7%、「自分は汚れてしまったと思う」29.7%で、加害者が顔見知りの場合、いずれもその割合はさらに多かった。
- 「人と親しくなったり恋愛したりすることが難しい」25.5%、「人と心から打ち解けることは無いと思う」21.2%、「人を避ける」21%。
- 同意のある状態であっても、性的な行為に嫌悪感や忌避感がある25.1%、「恋愛や結婚について希望を持つことが無くなった」24.5%、「子どもをもちたいと感じなくなった」20.9%。

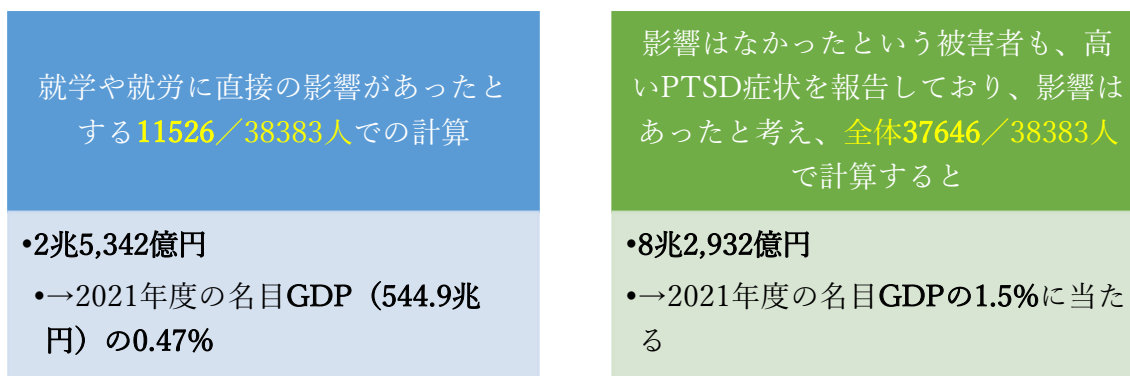
<https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0026/topic059.html>

- 半数以上が被害後から現在まで PTSD 症状が継続している。被害時の年齢は平均15.1歳であり、回答時の平均年齢は32歳。単純計算では17年間症状が継続している。



- アンケート調査を被害時のデータを元に、性被害者の年収を推計した結果、性暴力被害による社会経済的インパクトについて推計を示し、可視化することができた。

＜性暴力被害の現状と、身体的・精神的・社会的・経済的インパクト＞



- 「被害から今までのあいだに、あなたに起きたことや感じたことについて当てはまるものすべてを選んでください。適切な選択肢が無い方は、空欄で構いません。(複数選択)」という質問に対し、40項目のうち、身体への影響に関する項目について分析した結果、多くが被害に関係があると気が付かれないような項目が報告された。PMS(月経前症候群)は予想以上に多く、ホルモンとの関連が示唆された。

n=37,531 (被害者本人のみの回答)

身体症状	n	回答%
A 感情が高ぶると落ち着くまでに時間がかかる	7974	21.2
B <u>PMSや生理にまつわる不調がある</u>	7196	19.2
C 肩こりや体に痛みがある	5769	15.4
D 胃腸の調子が悪い	5207	13.9
E めまい、耳鳴り、悪心などがある	5086	13.6
F たばこ、アルコール、薬物などを摂取するようになった	2668	7.1
G 自己免疫性疾患にり患した	687	1.8

- 公訴時効の延長《現在の10年から15年に延長》案に関連して分析した。
刑法上の「性交」の対象が性器だけでなく、物の挿入も対象となる方向で対象者を計算した。被害者が18歳になるまでの年数も加えた年数で時効を計算した結果：
 - 10年時効では44.2%の人が訴訟を起こせない（物の挿入は含まず）。
 - 15年時効では26.7%（物の挿入を含む）。
 - 15年時効よりは%が多少下がることは評価できる。しかし、若い時期に被害に遭うと、（大人になってから）親など加害者に訴訟できない現状がある。時効の存在そのものが問われる。

今年度の到達点⑤：啓発・教育・広報活動：性暴力の理解を深める講演、研修、性教育の提供

実施項目⑤-1：講演、メディア活用、論文投稿、学会発表、研修、研修教材作成（絵本、DVD、オンライン）

実施内容：学校や各機関からの依頼や提案による講演や研修（オンライン含む）
新聞、テレビなどの取材

NFHCCの活動

- ・ 愛知県との協働
- ・ “When Survivors Give Birth” 訳本の出版
- ・ ホームページの検討
- ・ 看保連に医療加算に向けて申請中（チーム加算、性教育によるリハビリ技術）
- ・ 出版：NHKデータの活用 災害と性暴力（看護協会）、身体的影響（PVT理論）、こどもの科学（親からの被害）
- ・ ネブラスカ大学チーム、日本の取り組みをドキュメンタリーにするために来日（虐待死ケースについて、関係者2名が対応予定）、NFHCCも協力予定
- ・ ISVA導入の継続

成果

- ・ “When Survivors Give Birth” 訳本の出版について、毎日新聞で広報した。11月からは、各章ごとに翻訳担当者が精読会でファシリテーターを実施し、理解を深めている。
- ・ 日本フォレンジック看護学会とともに、看保連に医療加算申請を具体的に進めている。

今年度の到達点⑥：持続性のあるNGM4S救援システム構築に取り組みの全国展開

- ・ CACの設置支援（多機関連携のノウハウ、SANE含むスタッフの育成など）、PJメンバーが関わっていることから、全国展開の足がかりとする。

成果：

- ・ SANE受講者のアクションプランがより具体的になり、愛知県内だけでなく、他地域の積極的な病院も増えつつあり、具体的に性暴力被害者対応の数が、2021年と比較して、2022年では倍増している。（P.7の、愛知県性暴力・性犯罪被害者支援事業とSANE受講状況の図参照）

（4）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

○当該年度の研究開発を総括

- ・ OSC、トラウマ拠点、被害状況の可視化については、概ね目的に沿って展開できている。困難と思われた社会経済的インパクトをざっくりではあるが可視化できたことは貴重な成果である。連携センターでの急性期対応の体制づくりへの姿勢が積極的になってきたことも、PJの働きかけの成果と言える。

しかし、全国展開と事業化に向けての展開はまだ明確な方向性を示すことが

できていない。また、拠点病院とデータの扱いに関して覚書を文書でかわして
いなかったことで、データ管理システムについて検討し直すことになった。

○当該年度に明らかになった次年度に向けて取り組む課題

- 拠点病院とデータの扱いに関してPJアドバイザーに相談をした。
- これまでの経過についてまとめた文章と、今後のデータの取り扱いについての合意の文書を準備して拠点病院との話し合いの場を持ち、覚書を取り交わす。可能であれば、サイトビジットを兼ねてJSTに同席を依頼する。
合意文書に含めたい内容：
 - ① 2023/04/01以後に「なごみ」で使っている入力項目やUIなどについて、RISTEXの検討成果を引き継いで、新たに開発したものである
 - ② RISTEXで検討していた入力項目やUIについては、RISTEXプロジェクトによるものであり、帰属はプロジェクトである
 - ③ 2023/03/31までの案件の統計情報については、プロジェクトで活用できる
- 今後は、「性暴力被害者ワンストップ支援センターのための継続的・統合的データ管理システム」として開発を進め、名称をつけて商品化することを目指して積極的に取り組む。

2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
定期月1回	プロジェクト (NGM4S : Nagomi for Survivors) 会議	オンライン	プロジェクト活動の報告及び検討
定期月1回	MDTワーキング	オンライン	データ共有のための多職種多機関連携チーム (MDT) の構築と合意形成
定期月1回	データ入力ミー ティング	オンライン	なごみのデータ項目の決定と入力システムの開発と実装
定期月1回	SEワーキング	オンライン	性暴力の社会経済的影響について
定期月1回	PEワーキング	オンライン	PTSD治療効果、支援者育成支援
2022.10~ 2023.1	第9回性暴力被害 者支援看護職 (SANE) 養成プ ログラム	オンライン	8日間 [64時間] のプログラムであり、看護師/助産師/保健師の資格保持が受講要件。
2022.8.24	i-CARE(大人と 子どもの絆を深 めるプログラム)	日本福祉大学 東海キャンパ ス オンライン	看護実践研究センターのトラウマ インフォームドケアとして実施

2022.11.8	UK トレーナー (Alison氏、Ceri 氏) シンポジウム	オンラインと 対面	性暴力被害者への対応： ISVA (Independent Sexual Violence Advisor)の役割
2023.1.25	i-CARE(大人と 子どもの絆を深 めるプログラム)	日本福祉大学 東海キャンパ ス	看護実践研究センターのトラウマ インフォームドケアとして実施
2023.1.26	山形県立医療保 健大学(山形県委 託)	オンライン	性暴力被害者への急性期対応の重 要性 ーリプロダクティブヘルス/ライ ツの実践ー
2023.3.21	i-CARE(大人と 子どもの絆を深 めるプログラム)	松阪市子ども 発達総合支援 センター	トラウマインフォームドケアとし て実施

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

NHKのHP「みんなでプラス“性暴力”を考える」との共同による大規模性暴力WEB実態調査アンケートを実施した。現在約38,000件の回答が寄せられ、現在分析中。

- なごみが担当：ワンストップセンター全国連絡会 2022.7.15 (土)
- NFFCCの活動
 - 愛知県との協働
 - “When Survivors Give Birth” 訳本の出版 と精読会の実施
 - トラウマインフォームドケア研修 (CARE 3回実施)
 - 性教育 絵本の活用
 - 出版：NHKデータを活用し、災害と性暴力(看護協会)、身体的影響(PVT理論)、こどもの科学(親からの被害)など書籍や論文などを執筆中
 - リーフレット修正
 - ホームページの検討
- 全国展開に向けて、
 - SANE研修に全国から継続して参加している病院への働きかけ
 - CACの設置支援(多機関連携のノウハウ、SANE含むスタッフの育成など)

4. 研究開発実施体制

(1) 研究グループ

グループリーダー：長江美代子(日本福祉大学、教授)

役割：NGM4S救援システムの実践評価修正とエビデンス蓄積の準備、システムの拡充と全国展開に向けての計画を練り遂行する

概要：アンケート調査で募った愛知県内の協力可能な精神科診療施設約32カ所（個人専門家の協力も含む）の協力を得てトラウマ・PTSD拠点を設置し、被害者への科学的根拠に基づいたPTSD治療およびケア提供を確保する。その上で、（一社）日本フォレンジックヒューマンケアセンター（NFHCC）と協働し、虐待専門医師、性暴力被害者支援看護師（SANE）、支援員、PTSD専門家、その他システムにかかわるスタッフ育成のための教育研修を企画実施する。

（2）なごみグループ

グループリーダー：片岡笑美子（一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター、会長）

役割：性暴力被害者支援の実践、病院拠点型OSCの運営、地域への拡大に取り組む。

概要：地域の連携病院とともに「なごみハブモデル」を構成し、その連携の中心として、IoT/情報連携支援グループにより作成開発された情報連携システムや応用プログラムを実践に乗せ、SANEのスキルアップとMDTの活性化に取り組み、その実践モデルを示す。連携病院スタッフの研修やワンストップ導入時のコンサルテーションとスーパービジョンはNFHCCが提供する。

（3）IoT/情報連携支援グループ

グループリーダー：榎堀優（名古屋大学・大学院情報学研究科・講師）

役割：なごみを中心に構築された地域内ステークホルダーとのネットワークと協働し、連携の基盤となる情報システムなどを作成開発する。

概要：連携に必要な情報や、情報の流れ、連携要求を明確化し、組織間連携スキームと、それを補助するシステムの構築、データベースの共通化やデータ共有のしくみの構築にとりくみ全国展開につなげる。研究グループとともに病院拠点型OSC活動データの分析により現状の数値化、各種活動の実施をサポートするシステム（例えばPE実施を補助するAIなど）を構築する。

（4）連携グループ

グループリーダー：小笠原和美（慶應義塾大学SFC研究所上席所員、群馬県警察本部長）

役割：多職種・多機関の代表が定期的集まることができている状況を土台に、「NGM4S救援システム」の効果を高める常時対応可能MDT構築に関わる。

概要：IoT/情報連携支援グループと協働してデータ連携を実現することに加え、実践的なMDT体制を構築するために、犯罪被害者サポートセンター系のOSCと病院拠点型OSC（警察関連と医療関連）、自治体と民間をつなぎ、全国のOSCのレベル向上につなぐプロセスを模索する。

5. 研究開発実施者

研究グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
長江美代子	ナガエミヨコ	日本福祉大学	看護学研究科	教授
小西聖子	コニシタカコ	武蔵野大学	人間科学部大学院	教授
Edna Foa	エドナ フォア	University of Pennsylvania	Center for the Treatment and Study of Anxiety	教授

なごみグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
片岡笑美子	カタオカエミコ	一般社団法人日本フレンジックヒューマンケアセンター		会長
山田浩史	ヤマダヒロシ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	第一泌尿器科 ／なごみ	部長
山室理	ヤマムロオサム	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	産婦人科	副院長
加藤紀子	カトウノリコ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	産婦人科	部長／センター長
坂本理恵	サカモトリエ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	医療社会事業部	係長

IoT/情報連携支援グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
榎堀優	エノキボリユウ	名古屋大学	大学院情報学 研究科	講師
間瀬健二	マセケンジ	名古屋大学	数理・データ 科学教育研究 センター	特任教授
林直美	ハヤシナオミ	株式会社マイ. ビジネスサービ ス.		副社長
大沢真知子	オオサワマチコ	日本女子大学	日本女子大学 現代女性キャ リア研究所	名誉教授 特任研究員

連携グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
小笠原和美	オガサワラカズ ミ	慶応義塾大学	慶應義塾大学 SFC研究所 群馬県警察本 部	上席所員 本部長
松田靖	マツダヤスシ	愛知県	防災安全局県 民安全課	課長
原恵	ハラメグミ	内閣府	男女共同参画 局男女間暴力 対策課	係長
加藤秀一	カトウシュウイ チ	名古屋市	中央児童相談 所	所長

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2022.5.14	出前型 被虐待 児診察技術研修	NGM4S PJ	日本赤 十字社 愛知医 療セン ター 対面	参加者： 26名 医師21 名、看護 職4名、 MSW1名	講師：認定特定非営利活動 法人 チャイルドファース トジャパン (CFJ) による 性虐待概論、MDTチーム 概論、刑法、診察方法概 論、診察方法、演習 95%が 満足～とても満足
2022.5.31	18歳を超えた 性的虐待ケース について	NGM4S PJ	オンラ イン	参加者： 57名+ス タッフ3 名	講師：「NPO法人子ども支 援センターつなぐ」代表 に依頼 課題への取り組み支援の糸 口をつかむため、なごみの スタッフ、弁護士、児童相談 所その他支援関係者みんな で学ぶ機会として、オンラ インレクチャーを企画した 94%が 満足～とても満足
2022.11.8	性暴力被害者へ の対応： ISVA (Independent Sexual Violence Advisor)の役割	NGM4S PJ ISVA- Japan	オンラ インと 対面 日赤豊 田愛知 災害管 理セン ター	SANE, アドボケ ーター ISVA受 講生 50名 対面10名	UKトレーナー (Alison氏、 Ceri氏)

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・ 性暴力被害者の身体的ケア、長江美代子(pp. 86-88). 性暴力被害の心理支援：斎藤梓・岡本かおり(編集)、金剛出版、2022.
- ・ 性暴力サバイバーが出産するとき：子供の頃に性的虐待を受けた女性が出産するときにかかることの理解と癒し、Klaus, P., & Simkin, P. (白井千晶監訳・性暴力サバイバーの妊娠出産ケアプロジェクトチーム訳)、株式会社ともあ、2022.
- ・ 災害・パンデミックにおける性暴力被害への対応：性暴力対応看護師 (SANE)の立場から、長江美代子. Nursing Todayブックレット編集部、災害と性暴力—性被

害をなかったことにしない、させないために：日本看護協会出版会、2022.

(2) ウェブメディアの開設・運営
なし

(3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2022.4.27	部内研修	青森県警察本部	青森県警察人身安全対策課	性虐待事案対応に従事する捜査幹部・捜査員数十名	性虐待事案対応を中心に多機関連携の重要性や先進県の実践例について講演 小笠原
2022.6.28 2022.11.30	講義	日本環境大学看護学部母性看護	日本環境大学	看護学生	性暴力被害者への急性期対応の重要性ーリプロダクティブヘルス・ライツの実践ー 片岡
2022.7.8	講義	日本福祉大学	日本福祉大学東海キャンパス	看護学生	精神看護方法論 性暴力被害者への急性期対応 早期介入でからだところを守ろう 片岡
2022.7.25	人身安全関連事案研修会	富山県警察少年女性安全課	富山県警察本部	性虐待事案対応に従事する捜査幹部・捜査員数十名	性虐待事案対応を中心に多機関連携の重要性や先進県の実践例について講演 小笠原
2022.8.17	人権問題講座 第3回：犯罪被害者の心に寄り添い偏見や差別のない社会へ	名古屋市教育委員会生涯学習課	緑生涯学習センター	一般 30名	性犯罪被害者が受ける二次的被害を生む偏見や差別があることに気付き、性犯罪被害者が地域で安心して暮らすためにどのようなことが必要かを考えるきっかけとする。 長江
2022.9.13 2022.12.19	講義	日本赤十字秋田看護大学大	日本赤十字秋田看護	看護大学院生	フォレンジック看護特論 性暴力被害者への急性期対応の重要性ーリプロダクテ

		学院	大学		イブヘルス・ライツの実践 － 片岡
2022.9.21	講義	日本福祉 大学 社 会福祉学 部	日本福 祉大学 美浜キ ャンパ ス	社会福祉 学部学生	保健医療福祉特講 性暴力被害者支援の現状と 課題－多機関多職種連携の 重要性 片岡
2022.10.7	第3回尾西地区 教育相談会	愛知県	県立津 島東高 等学校	尾西地区 13校の教 員	子どもの性暴力被害の現状 と支援－教育現場でできる こと－ 片岡
2022.10.15	性暴力被害防止 セミナー	愛知県防 災安全局 県民安全 課安全な まちづく りグルー プ	藤田医 科大学 保健衛 生学部 看護学 科1年 生	学生及び 教員 約160名	性暴力被害の実態や、被害 者に対する支援について知 り、対応について学ぶ 片岡・長江
2022.11.5	仙台市男女共同 参画推進センタ ー	公益財団 法人 せ んだい男 女共同参 画財団	仙台市 男女共 同参画 推進セ ンター	被害者と 接する機 会のある 支援者	病院拠点型ワンストップ支 援センターの支援の実際 片岡
2022.11.20	スクールソーシ ャルワーカー GIFU秋季特別 研修会	S C w o r k s GIFU	子ども の性暴 力被害 に向き 合う－ 学校で できる こと－	全国の SC、教職 員36名	S C w o r k s GIFU秋季 特別研修会 Zoom 片岡
2022.12.18	第一回 日本の 性暴力について 考える	日本ペン クラブ	オンラ イン	100名	講演 性暴力を考える-NHKアン ケート調査から見たこと 大沢
2023.1.26	山形県立保健医 療大学	山形県立 医療保健 大学（山 形県委	オンラ イン	母子保健 コーディネ ーター、母子	性暴力被害者への急性期対 応の重要性 －リプロダクティブヘルス/ ライツの実践－

		託)		保健担当 職員 産婦人科 医医療機 関看護職 員 60名	片岡
2023.2.4	性暴力被害者支援センター関東近郊連絡会	公益社団法人被害者支援センターすてっぷぐんま	オンライン	関東近郊において性暴力被害者支援センターを運営する団体の相談員・支援員その他関係者数十名	性虐待事案対応を中心に多機関連携の重要性や先進県の実践例について講演 小笠原
2023.2.6	J-13 グローバルな視点で考えるジェンダー	名古屋市教育委員会	名古屋市女性会館	名古屋市一般市民30名	性暴力とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ 長江
2023.3.4	第2回 被害者ケアの視点から日本の性暴力について考える	日本ペンクラブ	LOFT 9 (渋谷)	対面30名 & オンライン	基調講演 世代を超える 性暴力の悪循環を断ち切るために 長江
2023.3.24	性暴力被害者への急性期対応の重要性	愛知県	愛知県立総合看護専門学校	看護学生	リプロダクティブヘルス/ライツの実践

6-3. 論文発表

なし

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 3 件、国際会議 0 件)

- 日本フォレンジック看護学会 第9回学術集会、シンポジウムテーマ：『記録と証言』長江美代子・谷内裕花：教育ガイドラインに示されるSANEの記録について、2022年9月4日 (日) 東京有明医療大学
- 日本フォレンジック看護学会 第9回学術集会、ワークショップ「地域で病院拠点型ワントップ支援センターを広げよう！」片岡笑美子：病院拠点型ワンストップ支援センター開設へのステップー性暴力救援センター日赤なごやなごみを開設してー

2022年9月3日（土）東京有明医療大学

- ・ 第25回日本腎不全看護学会学術集会支え合うケア～シームレスな連携～ 教育講演
長江美代子一歩ふみこむサイコネフロロジーケア（暴力、PTSD） 2022年10月
15日（土）名古屋国際会議場

（2）口頭発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

（3）ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

6-5. 新聞報道・投稿、受賞等

（1）新聞報道・投稿（ 3 件）

- ・ i女のしんぶん
2022年（令和4年）11月10日（木曜日）
- ・ 毎日新聞
2022年（令和4年）12月3日（土曜日）
- ・ 毎日新聞
2023年（令和5年）1月12日（木曜日）

（2）受賞（ 0 件）

（3）その他（ 3 件）

- ・ NHK 取材 2022.5.15 “性暴力” 実態調査アンケート 分析会議
- ・ NHKスペシャル（放映） 2022.6.19 : 私を奪われて
- ・ NHKプラス 性暴力を考えるvol.172 : 3万8千超の性被害
<https://www.nhk.or.jp/minplus/0026/topic059.html>
- * NHKアンケート調査の分析は以下で順次報告（性暴力を考える）
<https://www.nhk.or.jp/minplus/0026/>

6-6. 知財出願

（1）国内出願（ 0 件）